

2007年6月

山口情報芸術センター(YCAM)presents



# 『もっと演劇を楽しむためのワークショップ』

2007年7月14日(土)~16日(月・祝) 各日13:00~17:00

※原則として3日間通しての参加

山口情報芸術センター スタジオB

講師：阿部初美(演劇集団円)、谷川清美(演劇集団円)

主催：財団法人山口市文化振興財団 企画制作：山口情報芸術センター 助成：財団法人地域創造

山口情報芸術センターでは、7月14日(土)~16日(月・祝)の3日間にわたり、演出家 阿部初美と俳優 谷川清美を迎えて『もっと演劇を楽しむためのワークショップ』を行います。

**経験不問！ 演劇を観ることにちょっと興味のある方向け、  
もっと演劇を楽しむためのワークショップ開催！！！！**



阿部初美 演出「アトミック・サバイバー -ワーニャの子どもたち」(東京国際芸術祭2007 撮影:松嶋浩平)

これは、現在日本で上演されている数々の演劇作品の中から、「現代演劇」をより深く楽しむためのワークショップです。

明治時代に輸入されて今なお、日本で上演される演劇の主流となっている近代演劇を振り返りながら、さらに近代劇以降の現代演劇がどのようなものとなり、現在どんな試みがなされているのか、いま注目の劇団の話も交えながら、楽しく演劇を紐解いていきます。

講師の阿部初美は、2003年、ベルリンでの「世界の若手演劇人を対象とした国際フォーラム」に参加。帰国後2004年より、「演劇と社会をつなぐ」をテーマに東京でワークショップ活動を始め、一方では山口にて、地域の高校の演劇部を対象とした、演劇ワークショップを行っています。また、阿部の演出作品にも多く出演し、2003年にはスイス、ドイツを拠点に斬新な作品作りで評価の高い演出家ヨッシ・ヴィーラーの作品『四谷怪談』で、主役をつとめた俳優 谷川清美も参加。作品を解釈し、全体をまとめ、彩る役割を持つ演出家と、それを身体で実現する俳優が実体験に基づき、演劇のお話をします。

演劇の批評家によるレクチャーではなく、実際に演劇作品を作る現場にいる演出家と俳優が、何を考えて、作品作りに挑戦しているか、を、生の声で聞くことのできるワークショップ。常に時代の流れと共にその目的やスタイルを変容させ、時代を鏡のように映し出す演劇の楽しみ方を知ること、私たちが「今」生きている世界に対する視点もきっと変化するはずです。

## 今回の演劇ワークショップについて

阿部初美

シェイクスピアは、「演劇は世界の鏡たれ」と言いましたが、長い歴史のなかで、演劇は現実をうつす鏡として、観る者の現実に対する認識を促すという役割を果たしてきました。そして時代の変化とともに、多くの演劇人たちは自分たちの時代に合った表現を探究し、演劇表現を発展させてきました。

日本では20世紀に入るまでは能と歌舞伎が親しまれてきましたが、ヨーロッパから近代自然主義演劇が輸入されると、いわゆる「型」ではない日常のような自然な演技や、写実的な筋を持つ劇表現が模索されてきました。今も一般的に日本の演劇に多くみられる表現、また「演劇」ときいて多くの人が持つイメージはこの系譜のものではないかと思います。

しかしこの表現は近代という時代が必要に応じて生み出した表現です。近代以降、映画やテレビなどの出現によって、演劇は独自の表現を追求し始めました。また携帯電話やインターネットなどの科学の発達によって時代がどんどん変化する中で、現代の私たちの時代に合った「現代演劇」の表現を探究する演劇人も世界には少なからずいるのです。そして現代演劇では、現代社会の多様化に呼応するようにその表現も多様化しています。

今回のワークショップでは、近代劇から現代劇への移行において何が大きく変化したのかを、また現代演劇を4つのキーワードを通してその表現のさまざまな方向性を、記録映像とともに、簡単な実践を通してみたいと考えています。（演技経験のない方でも大丈夫です。）そして、演劇鑑賞をもっと楽しむためのきっかけになればと思っています。

## ■ワークショップの内容

### (1)近代から現代までの世界の演劇の流れ

ヨーロッパを中心とする世界の演劇の流れをふりかえります。近代演劇の「欲望→障害→葛藤」という構造がどう壊れてどう変化してきたのか、現代演劇への移行期の作品（イプセン、チェーホフ、ブレヒト、ベケット）をとりあげ、これらのテキストを参加者が実際に読んでみることで、現代演劇の持つ表現の面白さを体験します。

### (2)現代の演劇を読み解く4つ（+α）のポイント

現代演劇を鑑賞する上での4つのポイント「社会性」「身体性」「古典の現代化」「演劇自身に対する問い」を実際の作品の映像を見ながら解説します。また、これらの要素を実践的なワークショップを通して体験します。

## ■講師プロフィール

### 阿部初美

1970年生まれ。1995年より、劇作家・演出家の太田省吾に師事した後、2000年より演出活動を始め。2003年、ベルリン演劇祭「若手演劇人の国際フォーラム」に参加。帰国後、日本におけるポストドラマ演劇の可能性を探る実験的ワークショップを開始する。また、東京藝術大学、山口情報芸術センター、NPO法人芸術家と子どもたち等で講師も勤める。

主な演出作品として、2004年『記憶』（日本の近現代詩/台湾国際リーディングフェスティバル）、2004-2005年『ベケット・ライプー「あしおと」「クァクァ」』、2005年世田谷パブリックシアター・ドラマリーディング24『エルドラド』（マイエンブルグ作）、2006年『4.48サイコシス』（東京国際芸術祭2006）、『アトミック・サバイバー』（東京国際芸術祭2007）など。

### 谷川清美

1967年生まれ。演劇集団円所属。主な舞台作品に、太田省吾演出『水の駅-3』『ヤジルシ』、ヨッシ・ヴィーラー演出『パウル氏』『四谷怪談』、アントワーヌ・コーベ演出『見よ、飛行機の高く飛べるを』、ルティ・カネル演出『母アンナ・フィーアリングとその子供たち』など。

阿部初美演出作品には、『4.48サイコシス』（東京国際芸術祭2006）、『アトミック・サバイバー』（東京国際芸術祭2007）、など出演するほか、ワークショップの講師も共に勤める。

■お申し込み

対象：高校生～一般20名(先着順)

参加費：¥1,500 (全日通しで)

申込方法：葉書・FAX・e-mailにて、住所、氏名(ふりがな)、性別、生年月日(保険適用のため)、  
電話番号・e-mail等連絡先をご記入の上、下記へお申し込みください。

山口情報芸術センター 演劇ワークショップ係

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 FAX：083-901-2216 E-mail: engeki@ycam.jp

申込締切：2007年7月6日(金)

■お問い合わせ

山口情報芸術センター(YCAM) 教育普及担当 林、会田、山城

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216

E-mail: information@ycam.jp <http://www.ycam.jp/>

<山口情報芸術センターへのアクセス>

■JR新山口駅から

- ・JR山口線湯田温泉駅下車、徒歩20分/タクシー5分
- ・JR山口線山口駅下車、徒歩20分/バス10分(中国町か済生会病院前下車)/タクシー5分
- ・防長バス/JRバス25分、中国町下車

■自動車利用

- ・山陽自動車道で防府東ICから30分/九州・中国自動車道で小郡ICから15分